

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念には、その人らしくこれまでの暮らしを大切に考えたサービスを提供することを掲げ、利用者一人ひとりとゆっくり向き合うことで、個々の暮らしを尊重する努力をしている。	○	利用者のこれまでの生活史を更に深く知ろうとする努力が必要だと感じている。今後は各利用者が生きてきた地域の特性や利用者地域とのつながりを理解できるよう努力したい。
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は職員全員の合議の中で考えまとめられたものであり、理念は共有できている。	○	各職員が日々の実践の振り返りができるような習慣をつくりたい。月ごとに介護のまとめを作るとき、併せて自らの振り返りをするように、記入用紙を検討中。
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	基本理念は玄関と食堂に掲げている。パンフレットや重要事項説明書にも明記し、入所申し込みや入所決定時に説明をしている。法人が発行する広報誌は年2回。	○	当事業所独自の広報誌を作成し、地元の住民に理解を得やすいわかりやすい内容にして、頻繁に、できれば月1回程度発行したい。
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	総合福祉施設の一角に設置された建物であり、周辺には民家がなく、日常的なつきあいできていない。	○	グループホームの意味や現状を地元の住民に知ってもらうことが最優先であり、その上で地元とどう関わっていくことができるのかを検討したい。
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しておらず、行事の案内はしてもらっているが実際には活動には参加できていない。しかし、納涼祭では地元住の民も参加されてにぎやかに交流ができています。	○	まずグループホームに関する認識を地元の住民に深めてもらえるような働きかけが必要と考え、広報誌が発行できるようにしたい。また、地元自治会の特徴を知る努力が必要。
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ地域への支援体制や事業の取り組みはできていない。地域密着事業所と地域包括支援センターとの連携体制が今年度から作られ、その一翼を担うようになっている。	○	認知症介護をしている家族やご本人にとって出来る限り自宅で安心できる生活環境を整えるための支援体制として、今年度からショートステイを受けられるよう準備を進める予定。
地域とのつきあい 3項目中 2項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上を図る上で自己評価と外部評価は必須のものと考え、現在提供するサービスの質を客観的に根拠をもって分析する手段となるよう考えている。	○	自己評価については、職員の習慣として毎月わかりやすいチェック項目に沿った自己点検を行い、自己評価は少なくとも年間2回は実施できるよう努力する。
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、その時々で現状の報告や課題について検討している。毎回地域代表の委員から貴重な意見をもらい、具体的に地域交流の方法などの提案も頂いている。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定例に機会があるわけではないが、常に市町とは風通しの良い関係がある。公設民営の施設故に、市町担当者は変わっても今日まで連携は常にとられている。	○	グループホームから積極的に市町との連携をとることは今後も必要。定例的に市町への働きかけをすることも今後は検討したい。
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修や管理者研修で学ぶ機会は多く、利用者の権利擁護に必要な知識に加え、社会福祉協議会や行政に相談して、利用者にとって最善と思われる方法を提案できるよう努力している。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の観点から、些細なことも日常の中で見過ごされることがないように、基本理念に基づいて自己の振り返りを徹底している。	○	利用者一人ひとりにとって今置かれている環境に問題がないか、普段からのチェック方法を確立する必要がある。基本理念に則った形の振り返りを行うようにしたい。
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定時にはまず契約書と重要事項説明書を事前に自宅に届けて入所時までの間、家族は一読している。入所時には約1時間程度をかけて、重要事項を説明している。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者代表が2名出席している。利用者一人ひとりに対して担当職員が意識してじっくりと向き合い、利用者の思いを率直に引き出すよう努力している。	○	外部評価のみでなく、市町担当者などの訪問を受けるなどして利用者の暮らしの状況を外部者に示す機会を作り、利用者の意見や不満などに早期に気づけるようにしたい。
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員の手書きによる手紙をご家族に渡している。必要に応じて複数のご家族に郵送する。職員異動にはご家族も不安を抱かれるので必ず書面で報告している。	○	手紙のみでは具体的な様子は家族にはわかりにくいと思われるので、今後は写真やホーム便りのような、暮らし全体がイメージできるような情報の提供に努めたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情受付担当者や窓口の提示をしている。家族会で改善の提案や苦情があれば、その是正のための方法も家族会で合意していただき、実践している。	○	グループホームと家族との距離は以前大きく開いており、家族にとっても自分の家のような遠慮のないホームになれるよう今後も努力が必要と考える。
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催。その他随時職員間の意見交換は勤務交代時申し送りの時などに行われている。	○	職員会議では9名の利用者の個別ケアに関するカンファレンスも同時に行われるため、運営に関する意見の交換や検討には時間が不足している。個別ケアのカンファレンスは別の時間に設定することを検討したい。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別に受診に付き添ったり外出の支援をしており、随時職員体制の組みなおしをしている。里帰りにも職員が支援できるよう、お互い職員間での理解が深く勤務の補充体制も整っている。	○	基本的に職員内での人員確保はするが、行事や外出への支援についてはご家族も巻き込み、職員や他の利用者への負担が過度にならないようにしていきたい。
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	意見交換が常にできるよう、チームワークを重視している。職員の異動については、急激な変化を来たさないように、異動の時期をずらすなどの配慮をしている。		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場を離れての研修の機会は、全職員でできるだけ平等に行きわたるよう配慮している。研修内容は職員自身の意向を確認して決めている。	○	職場内で研修の機会が少ないため、認知症介護に必要な勉強会や福祉職として必要な人権学習などの機会を計画していきたい。特に認知症を正しく理解するための学習を進めたい。
20	11	<input type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型認知症介護サービス事業所間の交流の機会はまだ確立できていない。しかし、行政主導による地域貢献(認知症啓発)にかかる検討会議が設けられ、管理者が参加している。	○	地元には認知症対応型サービス事業所が複数あり、今後は交流を積極的にすすめネットワークを作っていく。利用者も含め相互訪問の機会をもてるよう努める。
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員それぞれの得意とする分野や好みを大切に、仕事にも生かしていけるようお互いを理解し支えあっている。休憩室は利用者の居住空間から離れており完全に心身が休める環境になっている。		
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	公休の確保に努めている。夜勤を組む上では過重な負担がかからぬよう配慮している。毎月タイムカードにより超過勤務や遅刻の有無の点検を主任がしている。	○	定期的に職員は自己点検を行い、その内容を元に振り返りや評価ができるようにしたい。努力や実績を管理者が把握し、職員が向上心をもって働けるよう職員個々に対して認め合う努力をしていく。
人材の育成と支援 4項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の意思よりも家族の介護負担に目を向けることが多くなっており、利用者の意向が十分確認できているとは言いがたいが、事前面接や居宅サービスを利用している時に面談するなど、利用前の関係を大切に考えている。	○	利用開始までの間に、家族とともにご本人との時間を大切に考え、信頼関係を築きつつご本人の気持ちにしっかり耳を傾ける時間を設けるよう努める。
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネジャーを通してご家族と出会い、利用が決まるまでの間も家族の相談には随時電話や訪問などで応じている。随時見学などを目的に訪問の希望があれば対応している。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今現に起こっている暮らしにくさを家族や本人、ケアマネジャーと一緒に整理し、グループホームを利用することでどれだけの問題が解決されるのかの見極めをしている。	○	これまでの暮らしについて、サービスの利用状況も合わせて十分理解する努力が必要。入居に向けた視点ではなく、今までの振り返りを行うことでこれからの支援の方向を見出せるよう努力したい。
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急激な環境の変化は望ましくないため、ホームにはできる限り家族とご本人が前もって来ていただけるよう促している。	○	本人のこれまでの暮らし方を、入所より事前に十分把握した上で、関わり方を決めていきたい。よって入所時よりも入所前の関われる時間を大切にしたい。
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念にあるとおり、常にホームにいる人々は共に支えあえる仲間であるという意識でいる。介護を受ける側も提供する私たちも、時には助け、時には助けられて暮らしている。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いつも情報交換をして最新のホームでの様子が家族にも伝わるように努め、必要時には家族の協力もいただいている。しかし、一部の家族は施設に任せたいという認識であるように見受けられ、職員の対応に改善すべき点がある。	○	ホームと家族との距離を縮める努力が必要。今後はこまめにホーム便りなどを通して家族との連携を図っていく。
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長年ともに暮らしてきた家族の思いを聞くことに努め、そのことから家族と本人との関係を知るヒントを得るようにしている。疎遠になりがちのため、こちらから家族に関わってもらえやすいような提案をするように努めている。	○	ホームと家族との距離が縮まれば、本人と家族の関係にも徐々に変化が見えるものと考えている。ホームとして家族への働きかけを大切にしていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	町内の出身者が多いので外出の際にはなじみの 場所に立ち寄るなどしている。家族にとって長年住 み慣れた場所に行くことを拒否される場合があり、 十分な支援がしにくい。	○	家族の地域に溶け込むことへの拒否の思い は、短時間では変わらないと考えるが、まずは 地域に向けた認知症啓発とグループホームに 関する認識を高めてもらえるような働きかけをし ていきたい。
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	利用者間のトラブルは頻繁にあるが、居場所がなく なるようなことがないよう職員が配慮することで、孤 立されることがない。お互い思いやる行動も見られ る。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでは施設入所もしくは死亡のための退所で あり、いずれも継続した関わりは必要としていな い。施設利用となった場合にも、随時連絡を受けれ ば相談に乗る旨説明している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との馴染みの関係の中で、会話や表情の変化の中に意向を把握するようにしている。曖昧な時は職員間でカンファレンスにかけて検討している。	○	更に深く細やかに一人ひとりの生活史を知る努力が必要であり、センター方式を十分に活用して家族を巻き込みながら情報の整理をしていきたい。
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やケアマネジャーからこれまでの生活の様子を聞き取り、本人の個性の把握に努めている。	○	各利用者の生活史や暮らし方、価値観を全職員が共有し、利用者への理解を一層深められるようにしたい。
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や一日の流れを把握し、暮らし方に変化があれば注目して職員間で統一したアセスメントができるように努めている。	○	利用者のできる事に着目し、自身が行うことで自信や生きがいを感じてもらえるような支援をしていきたい。
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービスの方針として「利用者主体」を第一に考え、その時点でもっとも適切と考えるサービス内容を職員間で話し合いながら計画に上げ、家族には説明の上、同意を得るようにしている。	○	計画作成段階で、もっと家族の思いを聞き、本人のできる事も合わせて総合的に検討した上で個別介護計画を立てるようにしたい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	刻々と変化する状態に、時として計画の見直しが追いつかないこともあるが、変化があった場合には早期に家族と連絡をとり、計画の見直しより先立って対応について相談している。	○	利用者の変化に対して家族の思いがつかみきれないときがあり、日ごろから家族にもっと頻繁にホームの暮らしを知ってもらえるような努力が必要。
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、利用者との会話などを記録に残し職員間で共有している。それらの情報をもとに計画の見直しをしている。	○	記録に向かう時間があまり多くはとれず、記録を簡略化してしまうと、その場面の様子がわからないので、生活記録に抜け落ちのないよう、各職員間で徹底を図る。
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内で他事業も多種類あり、必要時には看護師に体調面などで相談ができる。また、受診時の主治医との連携が図れている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性について確認が十分ではないが、地元の民生委員やボランティアさんの運営推進会議への参加で、ホーム運営上必要な地域の協力体制について検討を進めている。	○	本人の意向を確認した上で、地域資源の活用を進めていく必要があると考える。具体的には母体施設にあるボランティアグループの協力を得て趣味活動の幅が広がるようにしたい。
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところグループホームを利用されている以外に、他のサービス利用へのニーズが認められない。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を進める上で地域包括支援センターとの相談が必要な時があり対応してもらっている。グループホームから地域に向けて発信できることはなにかを、共に考えている。	○	一人ひとりの暮らしがより豊かなものになるよう、長期的な支援計画を考える上で地域を巻き込んだ視点は重要。地域包括支援センターとの連携を積極的に進めたい。
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には基本的に家族の付き添いをお願いするようにしているが、詳しい近況は手紙にして主治医に伝えるようにしている。あるいは必要なら職員が付き添う。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に認知症専門医を受診している利用者は1名のみだが、認知症の診断を受けた医療機関との連携は欠かさないようにしている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務ではあるが看護職員が日常的に関わっており、常に体調面を中心に相談ができる状況である。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先にはホームでの様子をお知らせして入院中の生活がスムーズに送られるよう連携をとっている。定期的に面会に出かけている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じて、あるいは年に1回はご家族との話し合いをしており、終末の過ごし方、暮らし方について確認をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	徐々に進行する認知症により、できる事・できない事にも変化が生じることを職員がしっかりと受け止め、ホームでの暮らしがその時々に応じて適したものであるのかを見直している。時期を見計らい、また家族からの意向があれば、今後の変化に備えて準備を進める。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先の担当者やご家族とともに話し合い、今後の暮らしに必要な情報を提供し、住み替え後も必要時には相談に応じている。		
地域資源との協働 10項目中 10項目					


自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個々によって異なる行動傷害に対して、個人の尊厳を守りつつ他の利用者への影響も考慮して、トラブルにならないよう努めている。記録は個々にまとめられ経過がわかるようにしている。	○	毎日の自分自身の行動の振り返りを習慣づけて、馴れ合いの関係にならぬよう努力を続けていきたい。個人記録の保管管理を今後も効率のよい方法で徹底を図る。
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いが、一人ひとりの認知力に応じた方法で、十分に引き出せるように努めている。画一的にならず、個々の違いを尊重した支援方法を職員間で共有できるように努めている。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループ活動として取り組む行事や趣味活動では、自分の意思で参加できる利用者にとっては自分のペースの保持ができていますが、グループには入れない利用者もいる。	○	グループには入れなくても、個別に対応してその人らしくいられるよう環境を整えていきたい。
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択はできるだけ利用者自身がされることを支援している。理美容などは自分の行きつけの店があるのでご家族が中心となって出かけてもらっている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を作っており、その草むしりや水遣りなどの世話を利用者とともにしている。食事の下ごしらえや配膳、あとかたづけにいたるまで、それぞれのできる力に合わせた部分で職員とともにしてもらっている。	○	天気のよい日には、食堂の続きにあるデッキに出て食事を楽しみたい。
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物にはできるだけ利用者も数名一緒に出かけてもらい、それぞれが好みのものを食材として選んでもらっている。	○	個人あるいはグループで好物料理を食べる外食の計画を立て実行したい。
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に何らかの介助を要する利用者がほとんどである。個々の排泄パターンを知るため排泄チェック表をつけてパターンの変化を知り、個々のペースにあった支援をしている。	○	排尿排便のパターンをよりよく知るための工夫をしたい。
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は個々のペースに合わせてゆったりと介助ができていますが、入浴の曜日や時間帯は一律に決められており、特に時間帯についての利用者の意向確認ができていない。	○	入浴時間帯に関する利用者の意向の確認を行い、意向に沿える入浴介助の方法を検討したい。スムーズに入浴できなくなっている利用者への介助の方法も検討したい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	長年の生活習慣に基づいてベッドと畳の選択をしてもらった。布団干しやシーツや寝衣の洗濯は随時あるいは基本的に週1回行っている。	○	夏冬の室温の調整にもっと心がけて、より快適な環境を作りたい。
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や調理への参加や、買い物などの外出の機会などを個々の力に合わせた方法で提供している。	○	外出の機会を増やして気晴らしの機会を多くしていきたい。
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持金を保管する人は1名。自分自身がお金を預けたことがあるので、その場合は必要な分のみ家族から預かっている。外出時にはすべて立替払いをしている。	○	できる方には所持金をもってもらい、管理したり買い物に使ったりすることへの必要な支援のみするようにしていきたい。
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望を確認しつつ外出の機会をできるだけ毎日設けて、外に出かけるように働きかけている。	○	同一敷地内にある他事業所を活用して、毎日の散歩コースを組み立てて散歩を日課にした。
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者一人ひとりの意向を引き出すことが困難な場合が多いので、具体的に食べてみたい外食メニューを聞くことで、外出先を選んでいる。方法は家族とともどもであったり職員と複数の利用者となっていたりする。	○	更に一人ひとりの生活史を紐解いていくことで、昔馴染みの場所や思い出の場所などの情報を拾うよう努めていきたい。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りについて支援する体制にある。利用者自身が希望されれば対応はできる。職員から家族への手紙ではあて先を書いてもらうなど、少しでもできることに参加してもらっている。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問してもらっても、利用者やゆっくりくつろげる個室がとくに設定されておらず、場合によっては訪問者にとって居心地のよい環境にはなっていないと考えられる。	○	希望されれば、食堂だけでなく利用者の居室や別の部屋で時間をすごしてもらえよう配慮をしていきたい。
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関や居室の窓の鍵は開けられているが、基本的には夜間のみ玄関の電子ロックを使用。居室もサッシの鍵を二重にしている。身体拘束は行っていない。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時間によって、あるいは職員の人員配置によっては玄関のロックをするが、基本的には日中日勤帯には玄関に鍵はかけていない。居室は利用者自らが施錠される場合がある。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時見守りを徹底し、利用者の行動を制限するのではなく、安全への配慮という意味での見守りの徹底である。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや包丁、調理したばかりの熱い鍋類などは、安全に配慮した保管方法を考えている。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に1回は防災訓練を実施し、緊急時の非難誘導の訓練を取り入れている。個々に応じた危険予知をケアプランの中で明確にして全職員に周知をはかり事故防止に取り組んでいる。	○	誤薬が確実になくなるよう、薬袋への記名や日付の記入に取り組む。内服チェックシートなどを作り確実な内服管理に努めたい。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の研修会に参加し、救急車到着までの対応ができるようにしている。		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間での避難訓練はできているが、地域の住民から協力が得られるような働きかけはできていない。	○	まずは地元住民への、グループホームに関する認知度を上げる取り組みが必要。しかし敷地内にある他事業所との連携も重要であり、日ごろの訓練で互いの役割の確認をしていきたい。
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険予知ができれば必ず家族には連絡をとり状況の説明をする。対応策についても、生活の質の低下を招かぬような配慮の中で家族の同意を得ている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時に全員の脈拍、血圧、体温の測定を実施し、日々の変動がわかるように記録している。必要時には看護職員に報告し指示を仰いでいる。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に内服薬とその詳細の書かれた説明用紙を預かり、職員がいつでも確認できるようにファイルしている。薬の効能や副作用についても職員は承知している。	○	体調面での職員の気づきに関して、さらに具体的に積極的に生活記録に書きとめるよう努めていきたい。
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の運動(主に散歩)や寒天を中心とした食物繊維の摂取に取り組んでおり、下剤に頼らなくても安定した排便コントロールが、ほとんどの利用者でできている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいを声かけや一部介助によって実施。朝夕の口腔内の清潔保持のため個々に応じた方法で介助をして、口腔内のトラブルは非常に少ない。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量の把握と記録を徹底し、特に水分の確実な摂取につなげている。摂取時の形態も粗めのきざみ食や粥などの対応をしている。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、各々の感染症に対する予防対策を実践している。外出後や食事準備前の手洗いを確実にやっている。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	長期間の買い置きはせず、こまめに買い物をしてできるだけ新鮮な食材を使用している。まな板やふきんなどの調理器具の消毒を毎日実施している。	○	他事業所で実施する害虫駆除をホームでも取り入れて、害虫の徹底的な駆除に取り組む。
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花をプランターに植えて通りがかる人にも心を和ませてもらえるよう配慮している。玄関は広く段差もないので老人車を使用する人もスムーズに出入りできる。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を切花で花瓶に生けて(利用者とともに)玄関や食堂に飾っている。騒音は自動車の通る音と電話の呼び出し音が時々響く程度。窓が大きく、採光もよい。遮光のためのカーテンがあり、利用者が自ら開閉している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時のくつろぎのスペースがあるので、他の利用者から離れて過ごすことができる。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切なものほど実家に保管されていることもある。たんすや押入れが大きく、衣類などはすべてしまいこんでしまえるため殺風景だが、写真の額や鉢花などの小物を飾って居心地よくしたいと取り組んでいる。	○	今後は入居時の本人や家族との相談で、その人の暮らしをできるだけその人らしく送れるようにするための居室の環境づくりをじっくり考えたい。
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏はできるだけ冷房は使わず、自然な空気を大切にしてこまめに換気をしている。冬の暖房は空気を汚さない電気を使用。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はない。廊下の要所に手すりが設置され、個々に必要に応じてうまく活用できている。しかし浴室やトイレに手すりの必要な箇所があり、設置の予定。	○	浴室とトイレに手すりを完備して、利用者のできる力を活用してより安全に暮らしていただけるようにする。
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりとは向き合う時間を大切に考え、その個性を知って対応することで、わかる力を最大に活用できるように心がけている。	○	認知症によって暮らしにくくなっている利用者の症状の理解を、今以上に深める努力をしていきたい。
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由にデッキを通して外に出られるようになっており、畑やプランターの花の世話などの活動ができています。	○	畑はあるが利用者にとって行き来が不便なところにあるため、今後は利用者にとって便利な場所に畑の用地を作っていきたい。
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本理念に基づき、常に一人ひとりの利用者の個別性を見つめ、それぞれに異なるできる力を正確に把握して、職員間で統一した認識を持てるよう努力している。利用者ごとに異なる生活史についてより深く知ろうと、利用者一人ずつ担当職員を決めてきめ細かな利用者への配慮ができるように考えている。長年農村に生きてきた利用者が多く、その家族も巻き込んで、広い庭を活用した畑づくりに取り組み、水遣りや草むしりといった日課が利用者の暮らしに定着した。これらは長年培ってきた利用者の知恵や技術が生かされている。プランターには季節の花を植え、農作物や植物を世話することで暮らし全体の空間が広がりつつある。

評価結果整理表

個 別 表	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	2 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5. <input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4. <input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
IV－1. その人らしい暮らしの支援	
－1. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4) <input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	
－2. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2) <input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (5項目/5項目)について

地域密着事業を展開する上で、まずは地域との関わり方を模索している段階であり、今後の展開には多くの可能性を秘めており、今後は積極的に地域包括支援センターと連携を図りながら、地域づくりに貢献していかなければならない。地域への認知症啓発活動を進めるとともに、利用者家族のグループホームへの理解を深めていただけるような働きかけを強化する必要がある。利用者家族への関わりもさらに進める。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (2項目/2項目)について

利用者との信頼関係の構築は、グループホームでの一つの重要なキーワードであり、利用者に向き合う職員が、入居前の利用者との関わりの時間から大切に考えられるべきである。今後は地域のぬくもりが感じられるような、利用者にとってより一層不安の少ない生活環境を提供できるよう、家族とともに考えていきたい。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (4項目/4項目)について

各担当職員が中心となってアセスメントし課題を抽出しているが、今後も常に一人の思いに偏らず職員間の情報の共有に努めていきたい。担当が中心となって各利用者のこれまでの生活の振り返りを深めていく過程で、利用者の願う暮らしを想像し、実際に生活の場で実践をしていけるよう努めたい。地域との連携については今後の課題であり、個々に異なる地域とのつながりや地域への思いを知る努力が必要である。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (7項目/7項目)について

畑仕事や花作りなど、利用者によってはこれまでの暮らしので自分らしく生き生きとしていた頃を再現させるような時間をもてるようになっている。様々な場面において、一人ひとりができる事を表現して頂けるような配慮を今後も続けていきたい。家族との時間が減少傾向にあるため、それぞれの力に合わせた方法で、あるいは家族のおかれている状況にも応じた方法で、利用者や家族とのつながりを考えていきたい。

V サービスの成果に関する項目について

昨年途中から始まった運営推進会議では、回を重ねるごとに発展性がある具体的な議論が展開されるようになってきたが、見えてきたこれからの課題に向けてどう取り組めばよいかを具体的に考え実践をすすめていく段階である。また、利用者各々の馴染みの部分を知ること力を入れなければならない課題である。また、グループホームと家族との関係についてももう一度原点に帰って作り直す必要性が見えてきた。利用者の家族への思いを家族につなげ、また家族の利用者への思いをしっかりと利用者につなげるために、グループホームとして取り組むことを明らかにし、少しずつでも実践していかなければならない。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日:2007年 7月 25日

前回評価年月日:2006年 8月 31日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目番号	優先順位	内容				
1.3	1	基本理念の見直しをして地域密着型サービス事業所としての地域との交流が図れるように努める	2007年8月～ 2008年7月	基本理念に地域密着型事業所として必要な具体的文言を加え、職員に周知徹底を図った上で、地域交流の具体的な方策を検討する。広報紙の作成、他事業所や地元自治会活動への参加交流。		
7	2	家族との交流を深め、家族とグループホームの距離を更に小さくするようにすること。家族会の会長を決め有効な運営ができるよう支援すること。	2007年8月～ 2008年7月	家族懇談会を通じて家族会への支援を進め家族間交流や家族とホームとの交流が深まっていくように努める。懇談会を年1回から複数回開催できるようにする。ホーム便りとして写真も併せて各家族に発信する。		
19	3	重度化への対応に関する指針作り	2007年8月～ 2008年7月	看取り介護に関するホームとしての考え方をまとめ、方針を示す。重度化対応への指針を作成する。		
15	4	ケアプラン作成時の家族の参加	2007年8月～ 2008年7月	職員間のカンファレンスだけでケアプランが完成されないことがないように、常に家族との距離を詰めながら意見交換やカンファレンスへの参加が実現できるように努める。		
27	5	災害対策としてホーム独自の避難誘導訓練を頻繁に実施し、緊急時にスムーズに避難ができるようにすること。地域の協力が得られるまでには相互理解を深める必要がある。	2007年8月～ 2008年7月	母体施設との連携協力の体制作りを強化して訓練へのホームとしての参加をしていくと共に、ホーム独自の避難訓練を日常的に実施する。地元住民との相互理解のために、まずは職員と地元住民との交流の機会を作る		
23	6	その人らしい暮らしの継続のための支援(入浴時間)	2007年8月～ 2008年7月	固定時間になっている入浴時間の見直しを各利用者ごとに行う。個々の入浴に関する意向をより一層明確に具体的ににする。		